

1. 学校名 : 岡山市立小串小学校
2. 活動テーマ名 : 見つめ直そう私たちの小串
3. 実践概要・ねらい

本校の特色である「海辺の学校」として、児童一人ひとりが、目的意識をもって主体的に取り組める学習活動を組織するカリキュラム開発に取り組んだ。

各々の学習活動では、各学年の発達に即した、海を含めた地域や地域の方々との関わりや体験活動を通して、地域の海を改めて見つめ直し、自然を愛する心や郷土を誇りに思う心を育成した。また、これらの実践は、子どもたち一人ひとりが、小串地域の自然を守る活動をもとにしつつも、やがては日本・世界まで視野を広げていきながら、自分にできることを実践しようとする態度へ発展させる端子となった。

4. 実践計画

○中学年（3・4年生）「伝えようすてきな小串」

西栗倉小学校との交流を通して、互いの自然環境の違いや繋がりについて調べる。

○高学年（5・6年生）「見つめ直そう私たちの小串」

地域の自然環境へ主体的に関わる中で、海洋保全の在り方について探究的に調べる。

5. 今年度の実践

(1) 海を豊かにする活動

①「アマモ再生活動」(5・6年生)

(活動概要) 年間を通して、自分たちが育てたアマモを海に戻すという「豊かな海の再生」に関する象徴的な取り組みをする。

(教科関連) 5年社会「水産業」、5年理科「動物の誕生」
6年理科「生き物のつながり」

(実践詳細)

○「アマモ花枝」採集(相引海岸)

小串漁協の協力により、アマモ花枝を漁船で採取し、5・6年児童と教職員で、採取したアマモを束ねる作業を行う。花枝を束ねる作業を行いながら、児童らはアマモに付着している小さな生物へと目を向け、専門家の先生へどんな生き物なのかを訪ねたり、アマモ群生中の食物連鎖について解説を聞いたりする様子が見られた。こうして、束ねた花枝は、海中で熟成させた後、種選別作業を行う。



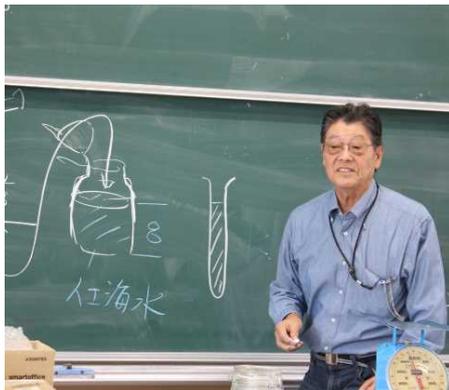
○「アマモの種の選別作業」 (小串小学校)

大学の専門家(福田教授)の指導のもと、海中で熟成させたアマモ花枝から種子を分別したり塩水による選別を行った。こうして選別した種子は、小串漁協の方々に冷蔵管理していただいた後、栽培容器への播種を行う。



○「アマモの種植え」 (小串小学校・理科室)

大学の専門家(吉備国際大学 福田先生)の指導のもと、栽培容器へ海砂を詰めたり塩水を用意したりして、アマモの播種を行った。この際、アマモのライフサイクルについての講話を聞いたり水温と種子の発芽状況について継続的に観察記録をしていくことについて指導を受けたりした。



○「アマモの植え付け」

本年度実践で播種したアマモ種子については、平成29年度2月初旬に、ボランティアダイバーの協力で海岸へ移植した。当日は寒さが厳しく、体調不良者も多数であったため現地での活動は中止となった。ここでは、昨年度から栽培していたアマモ苗を、平成29年度5月に海岸へ移植した様子について報告する。

大学の専門家（吉備国際大学 福田先生）に、海岸のアマモ植生やアマモ群生中の多様な生態系についての講義を受けた後に、児童らが自宅や学校で育てたアマモを、児童ら自身で栽培容器から取り出し、遠浅の海岸へ移植した。



（実践の成果）

アマモの花枝の選別作業に始まり、自分たちが育てたアマモを地元の海（相引海岸）に戻すという「豊かな海の再生」に関する象徴的な取り組みを行うことで、地域小串の海を再生する活動の一端に触れた実感をもつことができた。また、一旦失われた環境を再生することは容易ではないこと、再生のための取り組みはたゆまず継続的に行わなければならないことなど、地域のみならず広く地球規模の環境保全に関する知見や態度を培うことができたと感じる。

体験的な活動の前後には、自分自身やクラス全体でその振り返りを行うことで、活動から得た知見を整理し、他教科等においても関連づけた考えを発表したりするなどすることで 学びを深め、次の海洋保全活動につなげることができるようにした。

体験活動を学校と地域が連携・協力して行うことで、児童がより地域への関心を深めることができた。さらには、この活動が、小規模校の本校児童にとって人間関係を学ぶ貴重な場になっていることも強く感じた。

（次年度への課題）

各種地域団体の支援により保障されている活動であることから、支援関係者のご理解とご協力が重要な成立要件となっている。持続可能なカリキュラムにするためには、学校独自で取り組める活動を精査し、体験活動の再編を図ることが必要である。

②「西栗倉小学校との交流」（3・4年生）

（活動概要）

県北の森林地帯の小学校との交流を通して、様々な地域の特色や生活・文化を学び、振り返って自分たちの小串地域を見直す学習活動を展開する。計2回の交流活動は、学校間を行き来することで双方の地域を体験する。第1回は小串小学校へ招待し、「アマモの植え付け」や「つり体験」で交流した。第2回は西栗倉小学校へ訪問し、「森林体験」や「森林保全活動」で交流した。

（教科関連）3年社会「地域産業」、3年理科「植物」

4年社会「岡山県の産業」

○「アマモの種植え」（小串小学校・理科室）

「アマモ再生活動」での報告に記載した内容について、本校児童らが西栗倉小学校の児童へ説明したり、西栗倉小学校の児童らが森林保全活動についての紹介をしたりした。また、「アマモの種植え」については、両校児童が種の植え付け活動に取り組んだ。植え付け後のアマモの種は、栽培容器を各校で保管し、継続観察をする。



○「つり体験」（西原海岸）

小串地域の漁師（大元さん）を中心に、地域の方々の指導を受けながら、海岸でのつり体験活動を行った。小串小学校の児童らは、西栗倉小学校の児童へ餌の付け方や竿の振り出し方などを教えたり、海岸の様子を紹介したりした。



○森林体験（西栗倉村の天然林と人工林）

本校の子どもたちが西栗倉小学校を訪問し、県北の天然林と保全された人工林を見学した。子どもたちの居住する県南の河口へ繋がる源泉の湧く森の中で、遠く離れた自然環境の共通点や相違点に目を向けたり、保全活動について学んだりした。



（実践の成果）

「海辺の体験学習」を関係諸団体・地域ボランティア・保護者・学校が連携して取り組むことで、子どもたちは「なんとなく近くにある海」から「守るべき自分たちの海」へと認識を新たにしている。様々な発表会等での主張内容でも、具体的で体験に裏付けされた環境保全への提言がなされるようになっており、郷土の自然を守り大切に思う心や誇りに思う心が育まれてきていることがうかがえる。こうした心情の高まりから、地域の一員として自らが、地域の海洋環境ために役立つことを考えて行動することについての必要感が醸成されてきていることを感じる。

（次年度への課題）

今後は、地域の海洋環境から日本全体の海洋環境へと視野を広げ、やがては地球規模で環境問題を考えることができるような取り組みへと発展させていくことを目指したい。

（2） 海をきれいにする活動

①「クリーンアップ児島湾」（5・6年生）

（活動概要）

地域港湾関連企業の協力のもと、小型船で児島湾内を周回しながら浮遊物の分布や様子を観察したり、海面から回収して清掃したりすることを通して、浮遊物がどこから来るものかどうすれば減らすことができるかを学び、振り返って自分たちの生活や小串地域でできることは何かを見直す学習活動を展開する。

（教科関連）5年社会「水産業」、5年理科「動物の誕生」

6年社会「環境を守る」

○「海上アダプト」（児島湾内）

ポートオブ岡山（地元企業）の協力のもと、小型船へ児童教員等が分乗し、海面の浮遊物の種類や様子について観察したり、同乗している水産課職員の説明を聞いたりした。関係者の継続的な活動や啓発活動により、海面浮遊物はここ数年減少傾向にあることや浮遊物の種類は生活系ゴミが圧倒的に多いこと、海洋生物の生態に

大きな影響を与えていること等の説明を聞いた。

また、実際に船上から大型の網を使って浮遊物を船上へ引き上げて清掃する取り組みを体験させてもらった。



②「クリーンアップ光南台」(全学年)

(活動概要)

小串小学校が所属する光南台中学校区の海岸を中心とした一斉清掃活動を行った。中学校生徒会が企画運営を担当し、各地区ごとに作業を分担してゴミ収集を行った。

(教科関連) 5年社会「水産業」、5年理科「動物の誕生」

6年社会「環境を守る」

○「地域清掃活動」(光南台中学校区)

光南台中学校生徒会が中心となり、地区別一斉清掃活動を企画、実施した。各地区の中学生がリーダーとなり、事前の清掃活動啓発ポスターづくりや活動説明、当日の清掃活動のリーダー担当などを行った。かつて小学校で一緒に学んだ上級生と一緒に地域清掃活動を行う中で、ゴミの多い箇所や地域の様子などを共有し、同一の視点で地域環境の保全について語り合うことができた。



6. 主な連携機関と内容

- 小串漁業協同組合、岡山県水産課 (アマモ再生活動)
- ポートオブ岡山 (海面清掃活動)
- 岡山旭川ロータリークラブ (西栗倉小学校との交流活動)
- 吉備国際大学：福田博士 (アマモ再生活動)

3・4年生「伝えよう すてきな小串」 小串の海の魅力を発見しよう

【実践のねらい】

海を間近に望む「海辺の学校」であるという特色を活かし、豊かな自然環境とそこで生活する人々の工夫や努力を追究する活動を通して、「郷土、小串のすてきなところ」についての知見を広げ、地域の自然や産業、歴史などについて自分なりの意見を持ち、自分と地域の関わりについて考えることができるようにする。

【主な連携機関と内容】

- ・小串港湾施設：港湾の歴史探索
- ・地元漁業関係者：海洋生物講話
- ・地域ボランティア：海釣り体験

○時数 5月～11月 ○時間（総合的な学習の時間○， 社会科○）

○関連 社会科

- 目標
- (1) 郷土小串の海を知る体験的な活動を通して、身近な海洋環境と地域の人々の営みからすてきなところを見つけることができる。
 - (2) 自分で見つけた小串の海のすてきなところを、自分との関わりを明らかにしながら表現することができる。
 - (3) 郷土小串の海との関わりから得た知見をもとに、海とのよりよい関わり方について考えることができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">伝えようすてきな小串</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 120px; height: 40px; margin-bottom: 10px; margin-left: 50px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 90px; height: 40px; margin-left: 100px;"></div> </div>					<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">調べよう西粟倉の自然</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; margin-left: 50px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 90px; height: 40px; margin-left: 100px; margin-top: 20px;"></div> </div>						
探究的な活動												
表現活動												

